

内住するキリストを経験する

聖書：ヨハネ 14:16-18, 20. ローマ 8:9-10.

ガラテヤ 2:20 前半. 4:19. エペソ 3:17 前半

- I. キリストは奥義であり、彼が内住することもまた奥義です——コロサイ 1:27：
- A. キリストが内住することは非常に真実であり密接です。なぜなら、それはわたしたちの内側で起こり、わたしたちと密接に関係しているからです——ヨハネ 14:20. エペソ 3:17 前半。
 - B. 内住するキリストを経験することは、真実で主観的な事柄です——ローマ 8:10. II コリント 13:5. ガラテヤ 4:19。
- II. 主イエスは地上にいた時、彼の弟子たちの外側の慰め主でしたが、彼が復活した後、彼の弟子たちの内側の慰め主となりました——ヨハネ 14:16-18, 20：
- A. 「慰め主」のギリシャ語は、「弁護者」、「そばにいてわたしたちの諸事、案件を顧みる者」という意味です。
 - B. 主イエスは地上にいた時、優しい顧みる慰め主として、外面的な方法で彼の弟子たちと共にいました。彼が物質的に弟子たちと共にいたことはすばらしいことでしたが、彼は外面的な方法でしか彼らと共にいることができませんでした。なぜなら、彼は依然として肉体の中におり、空間と時間によって制限を受けていたからです——16 節。
 - C. 内住する慰め主、すなわち弟子たちの内側の慰め主となるために、主イエスは死を経過し復活の中へと入って、実際の霊、命を与える霊と成る必要がありました——17 節. I コリント 15:45 後半：
 - 1. キリストにあるわたしたちの信仰の最も尊い結果は、わたしたちがキリストをわたしたちの中へと受け入れることです。今や、彼はわたしたちの中へと入って、わたしたちの内側の慰め主として、いつでもどこでもわたしたちと共にいることができるのです——ヨハネ 1:12-13. 3:15. 14:16-17。
 - 2. 17 節の実際の霊である「彼」は、18 節で主ご自身である「わたし」となります。これは肉体におけるキリストが、死と復活を経過して、命を与える霊、すなわち霊なるキリストと成ったことを意味します——I コリント 15:45 後半. II コリント 3:17 前半。
 - D. ヨハネによる福音書が啓示するのは、キリストが肉体と成って、神の小羊となったことと、彼が復活の中で命を与える霊、すなわち別の慰め主と成って、彼ご自身を弟子たちの中に息吹き込まれたことです——1:14, 29. 14:16-17. 20:22：
 - 1. 彼はその霊です。ですから、彼は弟子たちの中に息吹き込まれて、弟子

たちの中に生きることができ、弟子たちはその霊としての彼のゆえに生きることができるのです—— 14:19-20。

2. 第 20 章 22 節の聖霊は、実は復活したキリストご自身です。なぜなら、この霊は彼の息であるからです。その霊は復活したキリストの息です。

Ⅲ. ローマ人への手紙の主題である神の福音は、キリストが復活した後に、その霊として信者たちの内側に生きていることに関するものです—— 1:1, 3-4 :

- A. キリストは復活し、命を与える霊と成りました。彼はもはや信者たちの外側にいるキリストだけではなく、彼らの内側にいるキリストです—— 8:9-10。
- B. ローマ人への手紙における福音は、今や信者たちの主観的な救い主として彼らに内住している方についての福音です—— 1:1, 3-4. 8:10. 5:10。

Ⅳ. 使徒パウロは、内住するキリストを経験する信者の模範です—— I テモテ 1:16 :

- A. 「神が、喜んで……御子をわたしの中に啓示し」——ガラテヤ 1:15 前半, 16 前半 :
1. 御子を啓示することによって、神は喜ばれます。御子の生けるパーソンを明らかに示すこと以上に、神に喜ばれるものはありません。
 2. わたしたちは、御子の啓示で満たされる状態へともたらされる必要があります。それによって、キリストにわたしたちの中に生きていただき、新創造となるのです。
- B. 「わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです」—— 2:20 前半 :
1. パウロは、キリストの命が彼の中に生きているとは言わずに、キリストというこのパーソンが彼の中に生きていると言いました。
 2. 神のエコノミーとは、「わたし」がキリストの死の中で十字架につけられ、キリストが復活の中でわたしたちの中に生きることです。
- C. 「わたしの子供たちよ、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしはあなたがたのために、再び産みの苦しみをしています」—— 4:19 :
1. キリストがわたしたちの内に形づくられるとは、キリストがわたしたちの中で完全に成長することです。
 2. キリストはわたしたちの中へと生まれました。今、彼はわたしたちのクリスチャン生活において、わたしたちの中に生きておられます。そして、彼はわたしたちが円熟する時、わたしたちの内に形づくられます。
- D. 「キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです」—— 3:27 :
1. バプテスマされるとは、キリストのパーソンの実際の中へと浸されるこ

とです。

2. わたしたちは霊なるキリストをわたしたちの衣服として着ました。この意味は、わたしたちのパーソンとしてのキリストが、わたしたちの内なる存在であるだけでなく、わたしたちの外側の表現でもあるということです。

E. 「キリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように」——エペソ 3:17 前半：

1. 父なる神は、霊なる神を通してご自身の権威を行使して、わたしたちを内なる人の中へと増強しています。それは、子なる神がわたしたちの心の中に、深く下にご自身のホームを造ることができるためです。

2. わたしたちがキリストにわたしたちの内側のすべての部屋を得ていただき、彼に完全な権利と自由を与えて、彼がわたしたちの内側で願うことを何でも行なうことができるなら、その時わたしたちの心は彼のホームとなります。

F. 「わたしが、あなたがた一同をキリスト・イエスの心の深みの中で、どんなに恋い慕っているか、神がわたしの証人です」——ピリピ 1:8：

1. パウロは自分の天然の内なる存在の中では生きませんでした。彼はキリストの心の深みの中で生活し、キリストの心の深みの中でキリストを経験し、キリストの心の深みの中でキリストと一でした。

2. パウロは彼自身の心の深みを保たずに、キリストの心の深みを彼のものとししました。パウロの内なる存在は、キリストの心の深みで再構成されていました。

G. 「キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい」—— 2:5：

1. キリストの思いをわたしたちの内側で思いとすることは、わたしたちの天然の思いを否んで彼の思いを取ることによって、内住するキリストにわたしたちの中で生きていただくことです。

2. もしわたしたちが内住するキリストを経験し彼を生きたいなら、自分の思いを否み、自分の思いをキリストの思いで置き換える必要があります—— 1:21 前半。

H. 「なぜなら、もしわたしが何かを赦したとしたら、わたしの赦したことは、あなたがたのためにキリストの御前で赦したからです」——Ⅱコリント 2:10 後半：

1. パウロはキリストを生き、キリストと最も親しく最も親密な接触を持ち、キリストの目の表示にしたがって行動しました。

2. パウロはキリストと一であり、キリストで満ちており、キリストで浸透された人でした。彼は内住するキリストを真に経験しました——コロサ

1 3:11。

© 2011 *Living Stream Ministry*